

大豆技術情報 第3号

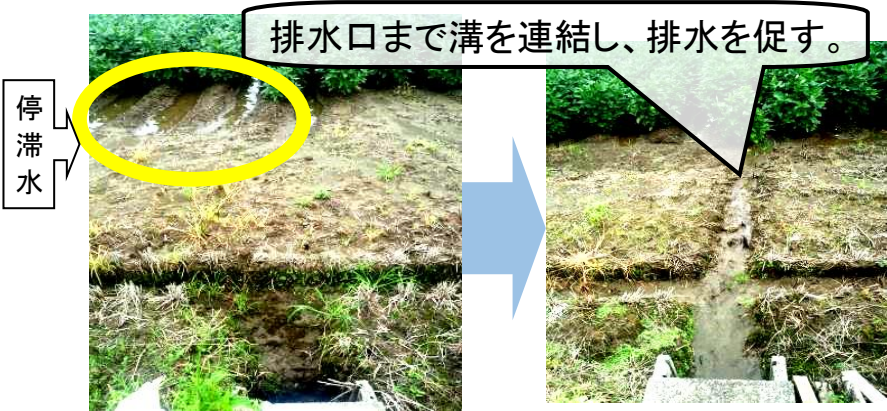
単収 200kg／10a 以上の確保、大粒比率向上に向けて

令和 3 年 7 月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

本年の大豆は苗立ちが概ね良好で、今のところ順調に生育しており、一部のほ場で開花が始まっています。
今後は、**排水対策**を徹底するとともに、適切な**雑草防除・病虫害防除**により生育量を確保し、品質・収量が高い大豆の生産を目指しましょう。

1 排水対策

- まだ、**2 回目の培土を行っていないほ場**は、土壌条件を確認して**すみやかに実施**しましょう。
- 降雨後の排水をスムーズにするため、培土作業でできた**溝と額縁排水溝は必ず連結**しましょう。



2 雑草防除

- 培土後に雑草が残っているほ場では、適切に除草剤を散布しましょう。

散布方法	雑草の種類	薬剤名	10a 当たり散布量	使用時期	使用回数
畦間・株間処理 (大豆にかけない)	1 年生雑草	ロロックス(水和剤)	薬剤 100～200g 水 70～100ℓ	本葉3葉期以降(雑草草丈15cm以下) 収穫30日前まで	1 回
		バスタ液剤	薬液 300～500mℓ 水 100～150ℓ	本葉5葉期以降、雑草生育期 収穫28日前まで	3回以内

注：畦間・株間処理の場合、吊り下げノズルを用い、薬剤が大豆にかからないよう注意して散布してください。

- 管内でも帰化アサガオ類などの難防除雑草の発生が目立ちます。早期発見に努め、ほ場周辺でみられたら開花・結実前に防除(除草剤散布、抜き取り等)しましょう。



3 病虫害防除

- ほ場を巡回し、病虫害の発生状況に応じて、適切に防除を行いましょう。

	防除時期の目安	対象病虫害	薬 剤 名	10a当たり散布量
随時	発生初期 (7月下旬～8月上旬)	葉焼病	Zボルドー	500倍 150～300ℓ
随時	葉が巻き始めたら (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ (ハマキムシ)	ダントツH粉剤DL (収穫 7日前まで)	4kg
			プレバソンフロアブル5 (収穫 7日前まで)	4000倍 150～300ℓ
基本 (1回目)	莢が伸びきった頃 (8月上旬～中旬)	紫斑病	Zボルドー粉剤DL	3kg
			ベルコートフロアブル (収穫 7日前まで)	1000倍 150～300ℓ
		カメムシが多い場合	スミチオンベルコート粉剤DL (収穫21日前まで)	3kg
基本 (2回目)	1回目の10～14日後 (8月中旬～下旬)	紫斑病 カメムシ類	ベルコートフロアブル (収穫 7日前まで) ＋ スミチオン乳剤 (収穫21日前まで)	1000倍 150～300ℓ
		紫斑病 カメムシ類	Zボルドートレボン粉剤DL (収穫14日前まで)	3～4kg
			アミスタートレボンSE (収穫14日前まで)	1000倍 100～400ℓ
随時	発生時 (8月中旬～9月上旬)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	ダントツH粉剤DL (収穫 7日前まで)	4kg
			ダントツフロアブル (収穫 7日前まで)	2500倍 150～300ℓ

注：防除の際は、農薬使用基準を必ず守るとともに、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。
※トレボン剤の使用は、随時防除も含めて2回以内です。

4 畦間かん水

- ・開花期から9月上旬までの水不足は、莢数や百粒重の確保に大きく影響します。**3日以上晴天日が続いたら**、土壌の乾き具合に応じて、**畦間かん水**を行いましょう。
- ・畦間かん水は**短時間で行い**、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかりと止め、**速やかに排水**してください。

カメムシ類の加害が著しいと莢数が少なくなり、青立ちが発生する場合があります。8月下旬～9月上旬頃に、カメムシ類のほ場への侵入が多い場合は、速やかに防除を行いましょう。



成虫
イチモンジカメムシ



幼虫



カメムシ加害による青立ち